第３種郵便物認可

# テラスホテルズ初V

## ハンドボール

県一般選手権

ハンドボールの第52回県一般選手権最終日は21日、豊見城市民体育館で行われ、男子1部決勝は興南BIC（前BIC）があらかき歯科を27―24で破って3連覇、女子1部決勝はザ・テラスホテルズがレキオクラブを19―18で振り切り、初優勝を果たした。

興南BICは後半に足が止まって逆転されたが、終盤に速攻からひっくり返した。テラスホテルズは選手を入れ替えた終盤、5連続失点で追い上げられたが逃げ切った。

男女1部の優勝、準優勝チームは九州一般選手権（5月、鹿児島県）への出場権を得た。【男子】

▽1部3位決定戦
マルユウハウジー 29―26 那覇西クラブ

▽1部決勝
興南BIC 27（12―15、12―12）24 あらかき歯科

▽2部決勝
名桜大 29（11―18、10―11）21 具志川HC

【女子】

▽1部3位決定戦
那覇西クラブ 22―21 宜野湾ガス

▽1部決勝
ザ・テラスホテル 19（8―11、12―6）18 レキオクラブ

▽2部決勝
琉球大 27（13―14、15―8）23 沖国大

【マスターズ】

▽決勝
糸満OB 13（7―6、5―4）9 興南OB

## 光る堅守 速攻で勢い

### 女子

2020年の日本ハンドボールリーグ参戦を目指す女子のザ・テラスホテルズが、19―18の接戦を制して初優勝を飾った。

堅守で勝利をつかんだ。元日本代表GKで主将の田口舞は、1対1のシュートを足ではじくなど好セーブを連発。ゴール正面を守る172㌢の塩田真奈美は両手を広げてコースをつぶした。企業チームならではの週5日の豊富な練習量で鍛えた体で、ゴールを狙う相手に体を寄せて前半を6失点に抑えた。

攻撃は速攻がさえ、ボールを奪うと素早いパス交換で前戦へ回した。チーム最多7得点の坂本朱里は「DFがずれてできたスペースを突いて得点できた」と喜ぶ。2得点の比嘉美咲紀は「しっかり守って得点できた」と手応えを語った。

11―6で入った後半は選手を入れ替えたことから追い上げられ、辛くも逃げ切った。試合後、田口主将は「うちらが目指すのはプロリーグ。ミスして笑ってはだめ」と仲間に喝。高良政幸監督は「正直ほっとした」と胸をなでおろしつつ、攻守を修正して九州大会へ臨むと誓った。（又吉健次）

㊤女子優勝のザ・テラスホテルズ㊦男子優勝の興南BIC

ザ・テラスホテルズ―レキオクラブ　前半、ザ・テラスホテルズの塩田真奈美が6点目のシュートを決める＝豊見城市民体育館（落合綾子撮影）

## 興南BIC 3連覇

### 男子

男子決勝は最後まで走り続けた興南BICがあらかき歯科を27―24で破り、大会3連覇を果たした。

191㌢や186㌢と長身選手の多い相手に「運動量で勝負しようと考えた」と主将の通事享介。平均174㌢のチームは高い位置から相手にプレッシャーを掛けて速攻を決め、前半を15―12で折り返した。

後半はリードに緊張が緩んだのか足が止まり、一時は逆転を許した。だが通事が「守備から足を動かそう」とげきを飛ばすと、下地利輝が左サイドから飛び込んで勝ち越しのシュート。さらに青木翔太郎が速攻からループを決め、突き放した。

週2日の練習で、1分間の20㍍ダッシュを3本行うトレーニングが実った。

5月の九州大会に向け、GKの大城龍司は「チームの力がどこまで通じるか楽しみ」と意欲を燃やした。

興南BIC―あらかき歯科　後半、興南BICの新垣信明がシュートを放つ